文政十戌年新版
江戸木挽町
本屋
西宮新右衛門
へ13
2378
377

遠
2378
377

岩井紫若述
北尾重政画

全部六巻

雁金文七
雷庄太夫
狂言樓五人絵

文政十一年戊子春
新刻繪草帋 發市

江戸本材木町一丁目
地本並義太夫正本
拔本 問屋
春案軒 西宮新六版

書肆春案軒の主人早に一部乃草稿を
とりかえ[illegible]ゝ愚智の僕なれ共其意を
恥とれば大偏にさるかくゝ大賢のそしられよ後ハ此方ぐく校正と云捨帰らるゝ
今更にあんと詮方なく良に京鎌倉時代小説の墨ぐ深何でも三千人文舎自笑其
積り名作と抗の仰と見るゝもに窠耳(通ふ雁の声ゑと目覚て思ひつく倍れ
有余浄瑠璃本五ツ雁金出入の類其名とゝぐたかりの文字反古に裏薄墨
も番官方の御眉見で評判わゝ板元も誠ふ本の出入ゝとゝぐと宝の紛失貧
婦の意乗地見も久ゝ紙尽ゝ[illegible]ゝの袖に深直ゝてハ
見されども行文掛ハぬ名案の著述ヤツト仕立ゝ一冊物
朕苧掛ゝく責紙ゝ御ゝと通ゝて
下さらぬ彼紺屋の文句に
なりがらく掛ゝ張れ面目ゝも
わびゝあるべゝ

文政十ゝ丈仲秋初雁の渡る頃草稿成
同十一年戊子ノ早春紙板

岩井紫若述
夷福亭主人 拔正

火うち竹おこ

ふくのけ
ぐたに
うち
侍れ
江戸
あんば
小地
ようす
来る

同家臣
布袋市之進

同家中
安野
平内

六樹園公羽

同家士
撥印
仙五
右衛門

安達家老臣
鳴神庄太夫

安達家
長臣
雁金
文七郎

化粧坂楽屋
欲満屋
業六
悪者獄門
欲浦屋
清川
実ハ安達家
息女調布姫
荘平

安達家
奥女中
小方
後ハ
本妻
妻多

はなみぐに
もつとも
天下
なぬひく
ちのこちも
しれ
如ようこまり
鈍々亭

都四條の緑日
商人
すんど物の
季兵衛
実ハ文七が
家従
黒船忠兵衛

假名太夫が
よろこらう
おすと
よろぶ

鉢かつぎの娘　さくら
実ハ安達治郎
捨若丸

梅榊
さてゐる流
この事
とんふかれ

業八ハ
五六八

仙

満屋

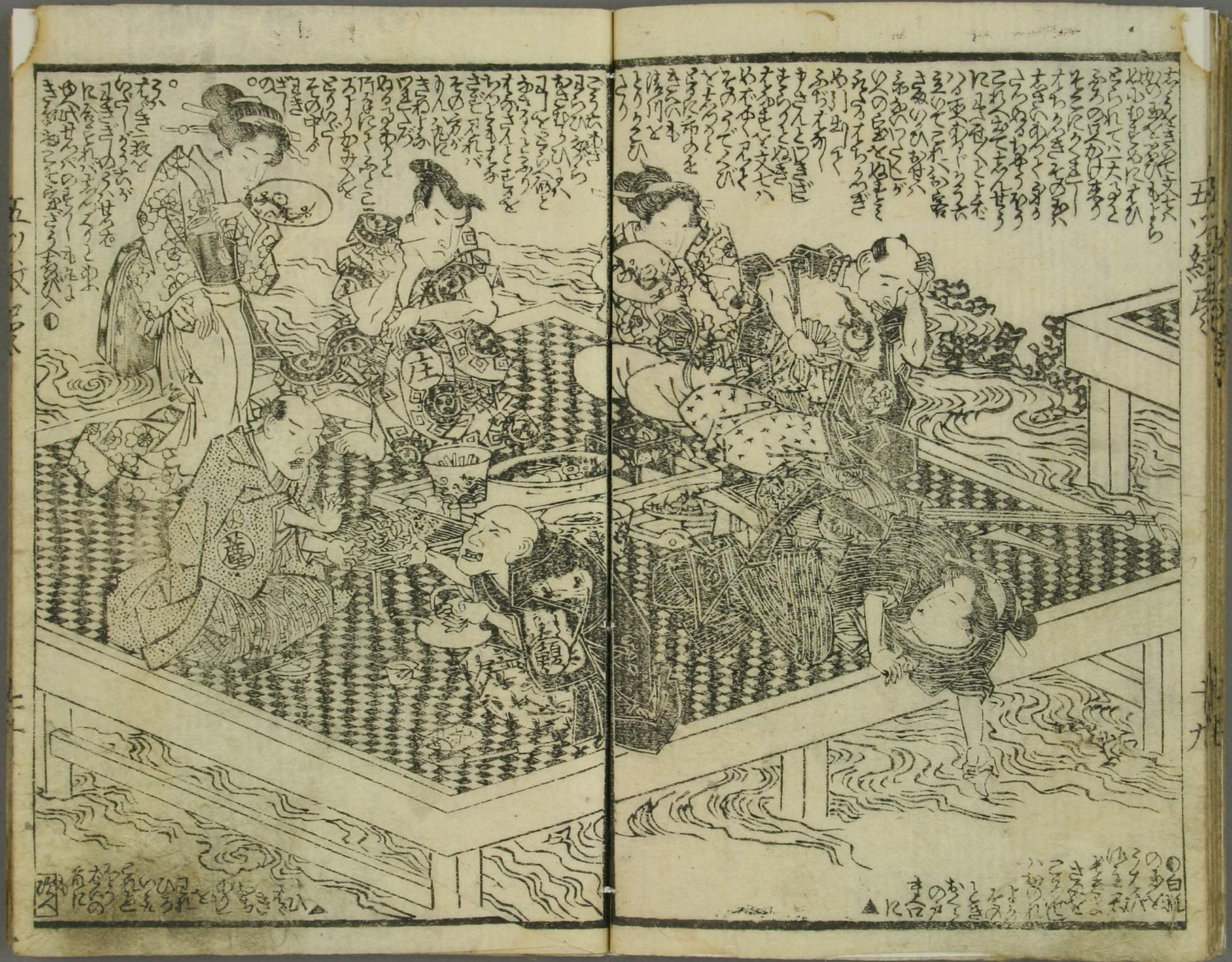
五ツ為尽
十三

岩井紫若氏
北尾重政画

五

文

拾



鈍
麗

川原屋

敏

東
庄
運
鰒

庄

ち
ち

拾
仙
平
忠
文
万

清浄
精裝

白粉

此白粉はなをへいらぬほどのあらあらしく入用ゆ
又ちゆうかに入ときはあらあらしくもめ
見れば白粉のあらあらしくもめ
如ものあらあらしくもめ

一包代三十二銅

寶小使の大奇の系

此清系いろほど幸久愛高花
清ゑう寺ゑんゑんゑんゑ
いふとの伝く清人のもめ
ゑしむものゑふ世上の愛果と
故郷のゑんゑんゑ見ひて

一包代銭三百銅

本家銅会所　江戸中橋廣小路　書林　西宮弥兵衛